

平成19年度図書館情報メディア研究科プロジェクト研究 研究成果報告書

種 目	寄附講座	共同研究	研究代表者 氏 名	薬袋秀樹
研究課題	地域の協働ネットワークを基盤とする公共図書館サービスモデルの構築に関する研究：地域を支える情報拠点として			
研究組織（研究代表者及び研究分担者）				
氏 名	所属研究機関・部 局・職	現在の専門	役割分担	
薬袋秀樹	図書館情報メディア 研究科・教授	公共図書館論	代表者・新しい図書館サービスモデルの普及と実現の研究	
西岡貞一	同上・教授	メディア開発論	共同研究者・子どもを対象としたワークショップの研究	
平久江祐司	同上・准教授	図書館情報学	共同研究者・公共図書館と学校図書館の連携・協力の研究	
宇陀則彦	同上・准教授	図書館情報学	共同研究者・電子情報資源の公共的利用と技術的展開の研究	
阪口哲男	同上・准教授	情報科学	共同研究者・電子情報資源の公共的利用と技術的展開の研究	
鈴木佳苗	同上・准教授	社会情報学	共同研究者・子どもを対象としたワークショップの研究	
濱田幸夫	同上・講師	図書館情報学	共同研究者・新しい図書館活動の評価指標の研究	
大庭一郎	同上・講師	図書館情報学	共同研究者・公共図書館と学校図書館の連携・協力の研究	
研究目的				
<p>現在、社会の急激な変化に伴い、地域社会と人々の生活は様々な課題に直面している。そのため、公共図書館に対しても、これらの課題解決に対する支援が求められており、そのための公共図書館の改革が論じられてきている。文部科学省生涯学習政策局に設けられた「これからの図書館の在り方検討協力者会議」は、各地の図書館における改革の取り組みをもとに、2006年3月『これからの図書館像－地域を支える情報拠点として（報告）』を発表した。この報告書は、これからの図書館の在り方を包括的にまとめているが、この報告書には、サービス改善のための具体的な方策や個別サービスの具体的な設計・実施方法は十分には示されていない。また、図書館のサービスに関する理論的裏づけも必ずしも十分ではない。そこで、本研究では、サービス改善のための具体的な方策、個別サービスの具体的な方策、設計・実施方法や図書館サービスの理論的裏づけについての研究を深める。</p>				
研究成果				
<p>本研究は3年間の計画で取り組み、その第2年目として、多様な機関・組織との連携・協力による協働ネットワークを基盤とする新たなサービスモデルを構築するための実証的研究を行った。そのアプローチは、(1)文部科学省の図書館施策の検討と普及、(2)図書館サービスの新しい評価指標の導入、(3)関係機関との連携、(4)情報技術の導入の4つの側面から行った。</p> <p>(1)については、第一に、『これからの図書館像』の実施方法の解説記事を発表するとともに、その背景に当たる文部科学省の社会教育関係答申について調査し、第55回日本図書館情報学会研究大会、日本生涯教育学会第28回大会で発表を行った。第二に、筑波大学公開講座『『これからの図書館像』を実現するために』で、『これからの図書館像』の背景や実施方法等について報告し、図書館現場での実施状況について意見を交換した。第三に、北海道振興協会による地域経済振興の観点からの『これからの図書館像』に関する調査に協力し、地域経済振興における図書館の役割について認識を深めた。以上から、図書館においては、『これからの図書館像』実現のための取り組みが期待されているが、より具体的な実施方法の提案が求められていることがわかった。</p>				

(2)については、公共図書館のサービスや業務のあり方を検証するために、全国の都道府県立図書館及び約180館の市町村立図書館を対象として「公立図書館における職員採用と業務分担に係る現状と課題に関する調査」を行い、公立図書館における職員の採用・異動等の現状及び課題、司書有資格職員の業務分担の状況等を明らかにした。その結果について、第55回日本図書館情報学会研究大会で発表を行った。また、過去6年間に図書館未設置を解消した自治体の市町村立図書館135館を対象として「公立図書館を新規設置する市町村における取組と課題に関する調査」を行い、公立図書館を新規に設置する際の取組の状況等を明らかにした。その結果について、2008年日本図書館情報学会春季研究集会で発表を行った。さらに、昨年度実施した「都道府県による市町村立図書館の支援等に関する調査」について、詳細な集計を行い、その結果を全国の都道府県立図書館等に送付した。

(3)については、本プロジェクト研究の成果をもとに、『社会教育』に公共図書館と社会教育施設の連携・協力に関する論文を発表し、昨年度に続き、学校における読書振興のための「朝の読書」の実施方法と学校図書館、公共図書館との連携方法について、『教職研修』に論文を発表した。

公共図書館と学校等との連携に関する提案を含む都道府県の子ども読書推進計画について調査し、平成19年度西日本図書館学会秋季研究発表大会で発表を行った。

そのほか、公共図書館で本を用いて調べ学習を行い、調べたことを粘土によって表現するワークショップを開催した(主催：筑波大学大学院図書館情報メディア研究科、牛久市立中央図書館)。ワークショップのテーマは、「動物」で、子どもたちは、グループに分かれて動物について調べ、粘土で作品をつくり、作品について発表し、その後、図書館内に参考資料とともに作品を展示した。参加した子どもや見学者の小学校教員に好評で、子どもたちの活動を支えるファシリテーター(本研究科の教員、学生、図書館員)等からプログラムの改善点への示唆が得られた。

(4)については、昨年度に続き、筑波大学電子図書館システム構築を通じて、電子情報資源を前面に押し出したポータルデザインが有効であるという知見を得た。

代表的な研究発表・特許等の成果一覧、特記事項等

1. 論文・記事

- ・葉袋秀樹「『朝の読書』がめざすもの 2(30) 朝の読書にどう取り組むか(3)－具体的な指針の解説①』『教職研修』35(8), 2007.4, p.98-101.
- ・葉袋秀樹「『朝の読書』がめざすもの 2(31) 朝の読書にどう取り組むか(4)－具体的な指針の解説②』『教職研修』35(9), 2007.5, p.98-101.
- ・葉袋秀樹「『朝の読書』がめざすもの 2(32) 朝の読書にどう取り組むか(5)－具体的な指針の解説③』『教職研修』35(10), 2007.6, p.96-99.
- ・葉袋秀樹「『講演』これからの図書館像～地域を支える情報拠点をめざして～」『松山大学司書課程年報』13, 2007.9, p.1-21.
- ・葉袋秀樹「公共図書館と社会教育 - 近くて遠い関係 - 」『社研通信～社会教育メールマガジン～』48, 2007.9. (オンライン)
- ・葉袋秀樹「社会教育審議会『急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方について－答申－』(1971)に関する論議』『第55回日本図書館情報学会研究大会発表要綱 2007』2007, p.21-24.
- ・葉袋秀樹、春田和男「社会教育審議会答申『急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方について』(1971)と図書館』『日本生涯教育学会第28回大会発表要旨集録』2007, p.17.
- ・葉袋秀樹「社会教育施設における連携・協力』『社会教育』740, 2008.2, p.22-27.

- ・葉袋秀樹, 小磯修二「インタビュー 地域を支えるこれからの図書館像」『マルシェノルド』20号, (開発こうほう増刊/地域経済リポート, 通巻536号)2008.2, p.1-10.
- ・濱田幸夫「公立図書館における職員採用と業務分担に係る現状と課題」『第55回日本図書館情報学会研究大会発表要綱』2007, p.9-12.
- ・濱田幸夫「公立図書館を新規設置する市町村における取組と課題」『2008年日本図書館情報学会春季研究集会発表要綱』2008, p.3-6.
- ・平久江祐司, 鈴木佳苗編『つくば市の公立小・中学図書館活性化のための学生ボランティアによる支援とその在り方: つくば市の学校図書館協力員事業に関する研究報告書』つくば市, 筑波大学メディア・教育研究会, 2007, p.8~16, 191~204.
- ・平久江祐司「求められる専門性の明確化」『学校図書館』687号, 2008.1, p.20~21.
- ・平久江祐司「情報化と学校図書館」『季刊文教施設』26号, 2007.5, p.30~33.
- ・大庭一郎, 北島加奈子「都道府県の子ども読書活動推進計画」『平成19年度西日本図書館学会秋季研究発表会』2007, p.1-12.
- ・西村有香, 大庭一郎「日本の国語科教育における読書指導の位置づけ」『2008年日本図書館情報学会春季研究集会発表要綱』2008, p.51-54.
- ・鈴木佳苗「複雑なメディアの影響の解明を目指して」『筑波フォーラム』80. (印刷中: .公共図書館でのワークショップの紹介記事)

2. 研究発表

- ・筑波大学公開講座「『これからの図書館像』を実現するには」(葉袋秀樹, 大庭一郎, 濱田幸夫, 2007年6月11日, 筑波大学春日キャンパス)を開催し, 本プロジェクトの研究成果をもとに『これからの図書館像』における個別サービスの具体的な方策, 設計・実施方法や図書館サービスの理論的裏づけについて講義を行った。
- ・第55回日本図書館情報学会研究大会において, 学会発表「社会教育審議会『急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方について—答申—』(1971)に関する論議」(葉袋秀樹, 2007年10月13日, 鶴見大学)を行い, 公共図書館界における国の答申に対する受けとめ方に関する分析の結果を発表した。
- ・日本生涯教育学会第28回大会において, 学会発表「社会教育審議会答申『急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方について』(1971)と図書館」(葉袋秀樹, 春田和男, 2007年11月10日)を行い, 社会教育行政分野における受けとめ方に関する分析の結果を発表した。
- ・第55回日本図書館情報学会研究大会において, 学会発表「公立図書館における職員採用と業務分担に係る現状と課題」(濱田幸夫, 2007年10月13日, 鶴見大学)を行い, 本プロジェクトで実施した約230館の公共図書館を対象とした, 公立図書館における職員の採用・異動等の現状及び課題, 司書有資格職員の業務分担の状況等についての調査結果を発表した。
- ・2008年日本図書館情報学会春季研究集会において, 学会発表「公立図書館を新規設置する市町村における取組と課題」(濱田幸夫, 2008年3月29日, 東京大学本郷キャンパス)を行い, 本プロジェクトで実施した135館の公共図書館を対象とした, 公立図書館を新規に設置する際の取組の状況等についての調査結果を発表した。
- ・平成19年度西日本図書館学会秋季研究発表会において, 学会発表「都道府県の子ども読書活動推進計画」(大庭一郎, 北島加奈子, 2007年12月1日, ルルサス防府)を行い, 47都道府県の子ども読書活動推進計画の全体像, および公共図書館の位置づけ等について, 分析の結果を発表した。

- 2008 年日本図書館情報学会春季研究集会において、学会発表「日本の国語科教育における読書指導の位置づけ」（西村有香，大庭一郎，2008 年 3 月 29 日，東京大学）を行い，小・中・高の学習指導要領（計 21 点）の内容調査を踏まえ，国語科教育における読書指導および学校図書館の位置づけの変遷について，分析の結果を発表した。
- 日本教育工学会第 23 回全国大会において，学会発表「中学生を対象とした映画ワークショップの実践（1）」（西岡貞一，鈴木 佳苗，杉中 慎，佐藤 武光，早稲田大学，2007 年）と「中学生を対象とした映画ワークショップの実践（2）」（鈴木 佳苗，西岡 貞一，佐藤 憲吉，佐藤 武光，早稲田大学，2007 年）を行った。
- （宮城県）平成 19 年度公立図書館長・公民館長研修会の基調講演者として，「図書館に期待される役割とサービス計画の立案」（濱田幸夫，2007 年 5 月 11 日，宮城県図書館）を行い，図書館サービスの今後のあり方等について本プロジェクトの成果を踏まえた講演を行い，参加者との討議を行った。
- 平成 19 年度京都府公共図書館長研修（主催：京都府図書館協会），長野県図書館職員研修（主催：長野県教育委員会），小牧市立図書館計画委員会（主催：小牧市立図書館）等において，本プロジェクトの研究成果をもとに，『これからの図書館像』の趣旨及び実現方法に関する講演（栗袋秀樹）を行い，参加者との質疑応答及び討論を行った。